

祝 成人

竜丘書道クラブ書

一月十日、晴天の良き日に竜丘公民館大ホールに於いて、平成二十七年竜丘地区成人式が盛大に開催されました。鈴岡太鼓の勇壮な演奏で始まった記念式典には、小学校恩師川本先生、佐藤先生、村沢先生ほか大勢の来賓、家族の皆様が見守る中、スーツや色とりどりの振り袖に身を包んだ六十三名の新成人が厳粛な面持ちで参列しました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,943人
男子	3,367人
女子	3,576人
世帯数	2,524戸
(27年12月末現在)	



冒頭、下平公民館長の挨拶では「理想は松、現実には柳。理想は松のようにどっしりと、現実の対応は柳のように柔軟に」と自身の座右の銘を紹介し社会生活の中で、自身を戒める言葉を述べた。

来賓を代表して中島武津雄市議は、ソフトバンク会長孫氏の談話を紹介し「成功する人は、高い志を持つ人だ」と新成人へエールを送りました。

第一部記念式典の最後は、新成人を代表して伊原瑞貴さんが「一人一人が自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持つて前進する覚悟です。」と意欲あふれる挨拶で締めくくりました。

第二部では、実行委員による催しが披露され、「想い出がいっぱい」の曲に乗せ小学校時代の写真が映し出されると、懐かしい友や、あどけない自分の姿に、大きな歓声や笑いが起こった。音楽会のビデオに「わー、懐かしい」と厳肅な第一部とは一変し、和やかな雰囲気になりました。

第二部の最後は竜丘松尾、下久堅三地区の実行委員が県内各地を飛び回り、合同で制作した緑ヶ丘中学校恩師からのビデオレターが放映されました。多感な中学生時代にご指導いただいた先生方の愛情深い言葉に、目頭を熱くした人も居たことでしょう。

その後行われた祝賀会は恩師佐藤先生の「輝かしい



未来に乾杯」と歓喜極まる発声が始まり、おかしんぼプラザの皆さんの手作りのケーキと料理、そして野菜路の皆さんによる手打ちそばが振る舞われました。数年ぶりに集まる同窓生、お互い成長し変わった姿に、昔の面影を重ねながら歓談のひと時を過ごしました。そして、二十歳の自分から二十一年後の自分へ宛てた手紙をタイムカプ



恩師との触れ合い

セルに託しました。また長野原分館長は、小学校六年生の時に集めた「二十歳の自分への手紙」を本人に手渡しました。

祝賀会終了後、自治振興センターの駐車場では長野原煙火会の皆さんにより、お祝いの花火が打ち上げられました。宵闇に浮かび上がる「祝成人」の文字と盛大な打ち上げ花火に、夜空を見上げ感激に浸りながら平成二十七年成人式は幕を閉じました。

竜丘地区では今年九十

新成人の抱負

成人式実行委員長
我科まどか



私はこの春就職し、社会人としての生活が始まりました。短大に通った二年間で学んだことを十分に活かしていけたらよいと思っています。

そして、今まで家族を始め、多くの人たちに支えられてきたということを改めて感じるようになりました。

下平 裕
(桐林)



私は今年度、二十歳になり成人の仲間入りをしました。私は現在、地元の会社で働いています。地元で働きたい気持ちもあり、この職場を選びました。実際に働いてみると覚えることもたくさんあり、仕事や人間関係の難しさを感じました。私の両親や周りの大

串原 まほ
(長野原)



成人式が始まるまでは、同い年の子達に久しぶりに会える位しか考えていませんでした。式が始まり、来賓の方々のお話や懐かしいビデオ、恩師の先生方を拝見しているうちに、自分が育ってきた過程や環境を振り返り、いつの間にか素の自分に戻っていました。今は学生的身で静岡県に

ヤブ奴

暖冬の影響もあり、過ごしやすいう年末が過ぎ、平成二十八年がスタートしました。新年を迎えて十日ほど過ぎると、毎年「荒れる成人式」と題して各地の様子が報道されます。飯田市内の成人式は、以前に荒れてしまったことがあり、その対処として現在は地区ごとに開催されていますが、地区開催としたことで、荒れることの防止よりも、地区ごとの特徴ある成人式となることが成果として挙げられます。「若気の至り」という言葉もありますが、秩序を乱さず、一生に一度の成人式を楽しんでほしいと切に願います。

年末の毎年恒例である某局の「紅白歌合戦」では、出演歌手の選曲は主催局が行うそうですが、中には「えっ」と思う選曲もあります。歌による戦いという目的があるのかと思いますが、時代の流れもあり、歌よりも演出やサブライズが重要視されているように思え、目的がズレてしまっているようにも感じます。しかし、スポーツライク一本で歌われた歌手に感動したとの感想が若者たちに多いとのデータもあるようで、若者の感覚も捨てたものじゃありません。

さらに、某国民的アイドルグループの分裂騒動が飛び込んできましたが、ファンによるCDの購入運動などで、数年前の曲がオリコン一位となるなど、思いが通じたのか分裂は回避されました。ここでも若者の行動力に感じました。

成人式を迎え、新たな思い、決意をする良い機会です。そして、その決意に向かって若者ならではの感覚、行動力で突き進んでほしいと思います。若者でない人も、今年の目標に向かって努力しましょう。

注意!!

- ・桐林エネオス交差点に信号機設置
- ・竜丘小周辺に「ゾーン30」整備

交通事故防止、安全向上のため、十二月より、国道百五十一号桐林エネオスガソリンスタンド角の交差点に信号機が設置されました。

さらに、近日に桐林地区の竜丘小学校を中心としたエリアが、最高速度が時速三十kmに制限となる「ゾーン30」として整備されます。

私が安全委員長を引き継いだときの最大のテーマが「ゾーン30」の整備でした。前委員長ならびに前地域自治会の皆様で協議され、各地区の皆様も含めてエリアを決定するまでかなりの議論がなされたと思います。今年度に入って日程も含め設置内容等が具体的に決まってくる中で、これも以前より懸念に上がつており、安全について呼びかけや看板設置を行い、警鐘を促していきたいと思っています。

安全委員長
小池 敬二



新設された信号（エネオス角）



ゾーン30（イメージ）



時間のかかった障子貼り

「丘のみちしるべ」が 地方事務所長賞を受賞

十二月十四日（月）に行われた「長野県地域発元気づくり支援金平成二十六年度優良事例表彰」において、「丘のみちしるべ」を活用した地域学習推進事業が下伊那地方事務所長賞を受賞しました。当日は新・丘のみちしるべ編集委員会岡村委員長と下平公民館長が出席し、地方事務所長から表彰状が授けられました。地域住民と学校関係者による編集体制や、わかりやすい本の内容、また、本を活用した学習会等が評価されました。岡村委員長からは「今回の改訂作業だけでなく、初版からの取り組みが評価されたと思っています」との受賞メッセージがありました。今後も、この竜丘を学ぶ教材が、様々な場面で活用されることが期待されます。



表彰状を受ける岡村委員長

寒い冬も楽しく健康的に! ～冬季スポーツフェスティバル～



十二月十三日（日）の午後、冬季スポーツフェスティバルが開催されました。小学校体育館での開会式、準備運動の後、ワンバウンドふらばーるバレー（ワンふら）は体育館、囲碁ボールは公民館大ホールで競技が開始されました。また、今回から「スポーツ吹矢」が新たに競技種目として加わりました。

ワンふらは、各分館の代表チームが不規則な動きのボールを共に声を掛け合いながら素晴らしいチームワークで追いかけて、熱のこもった戦いが繰り広げられました。



囲碁ボールは、各ブロックごとの対戦方式で行われ、微妙な力加減で転がるボールの行方に一喜一憂。和気あいあいとしたムードの中にも、各チームの駆け引きもうかがえ、接戦となりました。



【優勝チーム一覧】

ワンバウンド ふらばーるバレー		囲碁ボール			スポーツ 吹矢
男子の部	女子の部	Aブロック	Bブロック	Cブロック	
桐林分館	駄科分館	時又分館	駄科分館	長野原分館	駄科分館

平和な世の中のために ～竜丘小戦争体験講話～

竜丘小学校六年生が総合学習の授業で戦争に関する学習を行っています。十二月には、戦争当時の体験談を桐林在住の岡村美文さん（九三歳）からお聴きしました。

岡村さんからは、大東亜戦争（第二次世界大戦）の当時の世の中の様子から始まり、召集令状が届いた時の自分や家族の複雑な気持ち、軍隊での訓練から戦地でのつらく悲惨な光景が話されました。さらに、同級生をはじめ多くの命が犠牲となったこと、生還した後の地域の様子など、現在を生きる子どもでは想像することも難しい体験が語られました。

また、「国のために若者の命が失われたのは非常に悲しいこと」「今は国境がない時代であり、すなわち戦争をする必要がない時代でもある。これからはみんな地球を守っていくことが大事」「命はひとつしかない。命を大切に、平和な世の中



公民館 年末大掃除

十二月十三日（日）に毎年恒例の公民館の大掃除が行われました。公民館委員を始め、各分館の委員、社会教育関係団体、各種団体等百七十余名の方々が協力し、外回りの落ち葉などの片付け、窓ガラスや蛍光灯拭き、調理室の換気扇掃除などを行い、一年間のほこりをきれいに落とすことができました。今年も公民館のきれいな利用を心がけましょう。

心と体を鍛える ～剣道クラブ～

竜丘剣道クラブは毎週土曜日の午後五時から竜丘小学校の体育館で練習をしています。一月一日現在、一年生一名、三年生三名、六年生六名の計十名で活動しています。

サークル 紹介 メンバー大募集中



は、人を思いやる心。「義」とは、自分勝手なことをしないこと。「礼」とは、年上の人を敬い年下の人をやさしくすること。「智」とは、物事の正しい筋道を知っていること。「信」とは、友情に厚く、約束を守ること。この五常（五徳）を自然に身につけられるような指導を心がけています。健康やかな体と心が鍛えられます。一緒にやってみませんか？

書との出会い ～書道教室～

教室内に流れる静寂、紙を動かすかすかな音と、墨の匂いがほのかに香る。日だいたお手本とにらめっこし、たつぷり墨を含ませた筆が白い紙におろされ、字が書かれます。何度も書いてはお手本通りにいかないことにため息をつきつつ、先生の添削の説明になるほど、胸に落ちるものがあります。お互いの書を鑑賞し合いながら、和気あふいの雰囲気です。また、書き方のほか、字の基礎の「永字八法」から始め、基礎の「永字八法」を志す人は多い反面、長続きしない場合もあり残念ですが、日常の喧騒から離れて心の静かさに浸るのも良いと思います。小さなお子さんから高齢者まで、世代を超えての学びとしても良いことだと思います。お仲間になっていただける方を募集しています。

